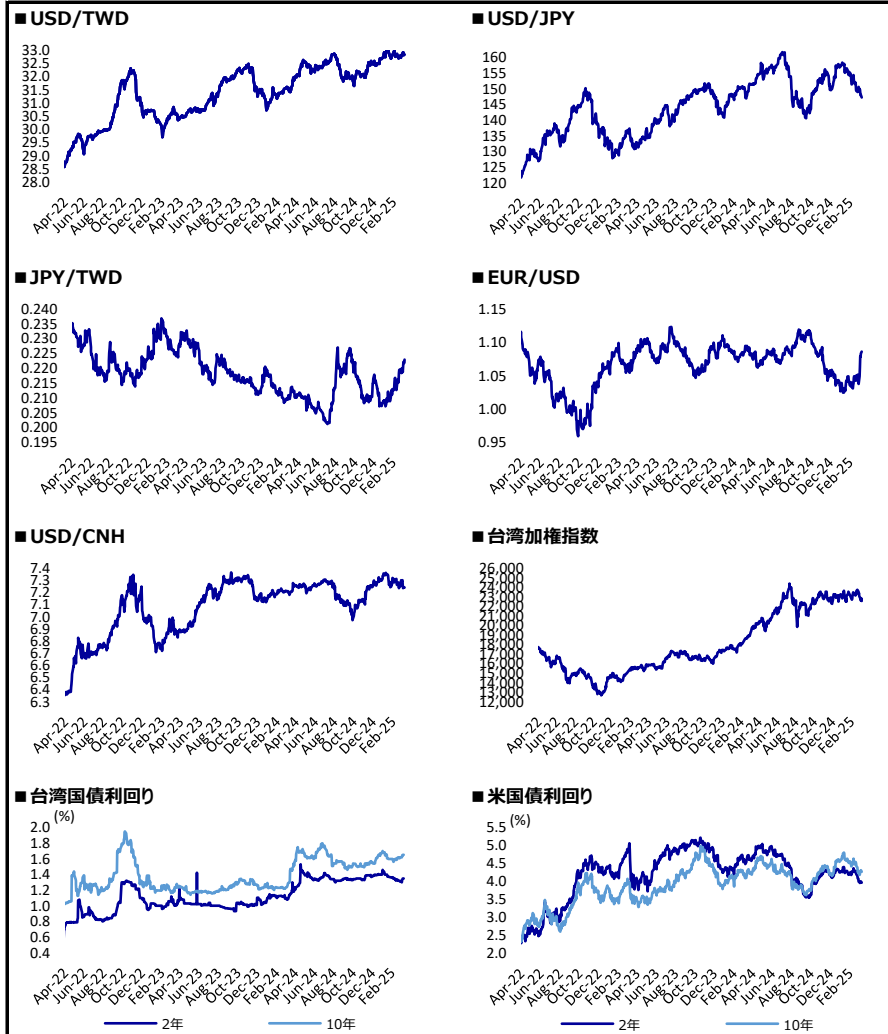


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/3は32.860でオープン後、トランプ関税や米景気に対する不安感から、台湾株の急落に伴うドル買いが加速し、一時32.970まで上昇。3/4は、マーケットは引き続きトランプ関税や米景気に対する不安感から、リスク回避のドル買いが先行し、一時32.976まで上昇。しかし、台湾株は引けにかけて徐々に値を戻したため、ドルの上値も限定的に留まった。3/5は、ユーロをはじめ、ドルは主要通貨に対し軟調に推移している中、アジア通貨もつれ高となり、ドルは一時32.796価格まで反落。3/6は、海外市場におけるドル安を受け、一時32.790まで売られたものの、外資や輸入業者によるドル買いが強まり、ドルは徐々に値を戻した。3/7は、軟調な台湾株を受け、ドルはやや買い優勢の展開。しかし、高値では輸出企業によるドル売りが待ち構えていることで、ドルの上値も限定的に留まった。最終的には前週比0.04%ドル高台湾ドル安の32.834で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,792億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初3/3は150.67でオープン後、欧州時間はユーロ円主導で円安圧力が強まり、ドル円は一時151円台前半まで回復となったが、米景気減速懸念及びトランプ関税に対する警戒から円高に急展開し、149円台前半まで反落。3/4は、トランプ関税発動でリスクオフの円高が進み、ドル円は一時148円台前半まで調整したが、EUの防衛費増額への期待からユーロ高圧力が高まり、ユーロ円につられて、ドル円も149円台前半まで買い戻された。3/5は、米2月ADP民間雇用は市場予想を下回った一方、ISMサービス業景況感指数は改善傾向で、ドル円に対する影響は限定的。3/6は、今年春闘の賃上げ要求は平均6.09%で日銀の利上げに追い風となったことに加え、欧州市場発の債券売りを受け、日本の長期金利も1.5%を上抜け、円買いが加速し、一時147円台前半まで買われた。3/7は、しばらくは147円台後半でもみ合った後、予想をやや下回った米雇用統計を受けて一時147円を割り込む局面も見られたものの、パウエルFRB議長が利下げを急ぐ必要がないとの見方を示したことを受け、148円前後に買い戻された。最終的には前週比1.71%ドル安円高の148.06で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.650-33.050
今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を見込む。トランプ氏による関税政策や貿易戦争の動向に対する不透明感が強い中、様子見姿勢が強まり、ドル/台湾ドルは揉み合いの推移となるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：145.50-149.00
今週のドル/円は上値の重い推移を見込む。カナダ、メキシコに対するトランプ氏の発言が二転三転する中、政策の明確な方向感が示され、米景気後退懸念が払拭されない限りは、ドルの上値が限定的に留まるだろう。

今週の予定

3/10 (MON)	独1月鉱工業生産
3/11 (TUE)	日10-12月期GDP確報値
3/12 (WED)	米2月消費者物価指数、米鉄鋼・アルミ関税発動予定日
3/13 (THU)	米2月生産者物価指数
3/14 (FRI)	米3月ミシガン大学消費者マインド指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。